

JAグループ広島東日本大震災支援隊

第1班（福島県）支援活動～絆～情報

平成25年9月20日
情報No.3

農業協同組合 御中
農業協同組合連合会 御中

JAグループ広島東日本大震災復興・再建対策本部
(JA広島中央会 総務部)

支援活動状況について

活動日	平成25年9月19日（木）	天気	晴れ
活動場所	組合員農家、矢野目モニタリングセンター、磐梯吾妻スカイライン		
活動概要	<p>東日本大震災たすけあい運動支援隊第1班の活動最終日となった3日目も、JA新ふくしまの職員の方々とのラジオ体操より開始した。</p> <p>午前中は、4軒の組合員農家へ支援隊員が分かれて、キュウリの摘葉や白菜の種付け等の作業を行った。</p>  <p>午後は、産直市、矢野目モニタリングセンターの視察、そして磐梯吾妻スカイラインの見学を行った。</p>		

矢野目モニタリングセンターは、それまでJA新ふくしま矢野目支店として使用していた建物が利用されている。

ここでは、出荷者ごと、品目ごとに放射能モニタリング検査を行っている。この検査は、定植日や施肥日といった生産履歴と連動したものであり、検査の有効期間は30日とされている。



様々な検査機器は全部で46台あり、そのうち、最高額のものも1,500万円もするとのことであった。

こうした徹底的な検査は、消費者への安心・安全の提供とともに、生産者への不安感を和らげることもつながっている。



わずか3日間という作業は、ほんの小さなものにすぎない。

しかし、同じ時間と場所を共有することで得た「感覚」と「感情」、そして現場で見たこと、出会った方々から聞いたことは、何にも代えがたい確かな「財産」である。この「財産」を支援隊員がそれぞれに持ち帰って活かしていくこと、そして「協同」のなかで福島への支援の気持ちを持ち続けてはじめて、確かな福島への復興につながっていくのだろう。

「平成25年度 東日本大震災たすけあい運動支援隊」第1班の現地活動は終了したが、JA新ふくしま 菅野組合長の「支援を始縁に」という言葉のように、支援は「縁」の始まりであるとして、これからも継続して自分なりの支援を行っていききたい。

以 上



【平成25年度 東日本大震災たすけあい運動支援隊第1班集合写真】